

# 史跡整備へ市民ら集う



4人の講師が研究成果をもとに意見を交わしたシンポジウム=館山

戦国大名里見氏が本拠としていた館山市の稻村城跡と南房総市富浦町の岡本城跡が、「里見氏城跡」として国史跡に指定されたのを記念したシンポジウムが14日、館山市のたてやま夕日海岸ホテルで開かれた。里見氏研究に携わってきた大学教授らを講師に迎え、「関東戦国史にみる里見氏」をテーマに討論。会場は立ち見も出るほどの大勢の市民が詰めかけ、それぞの研究に基づいた講師の話に聞き入つていた。

講演やシンポとおして機運を醸成

## 時代背景を研究家が討論

卷之三

卷之三

ポジムなどをとおして整備へ向けた第一歩として

大名誉教授、滝川恒昭。  
千葉城郭研究会、黒田基  
樹・駿河台大学准教授の

跡群へ目が向けられるようになってきた。以来、17年近くにわたる努力が実を結ぶ形で2つの城跡を指定。今後の取り組みによつては、さらに他の里見氏城跡の追加指定の可能性も拓げてきた。

かげ 集いの意義を述べた。続いて、千葉城郭研究会の遠山成一氏が稻村城跡と岡本城跡についてスライドを交えながら簡単に解説、さっそく講演に入った。

会場では、里見氏が本家から分家筋に“政権交代”した4代義豊の時代の「天文の内乱」（1533～34年）にも関わった「正木通綱」が記載された棟札も初公開され、滝川氏が詳しく紹介しながら、里見氏と正木氏の関係などを解説。佐

かげ 集いの意義を述べた。統いて、千葉城郭研究会の遠山成一氏が稻村城跡と岡本城跡についてスライドを交えながら簡単に解説、さつそく講演に入った。

藤氏は、甲  
書などを  
ら、前期甲  
考察。峰岸  
年（14世  
た奥羽地  
端を発し  
が起り、  
房入部にて  
類推した。

演説と行動

里見に關わる文  
ひも解きなが  
里見氏について  
里見氏は、享徳3  
（1544）に発生し  
て「享徳の乱」  
初代義実の安  
至つたのでほと

里見に関わる文

館担当課長の岡田晃司学

芸員がコーディネーターとなりシンポジウムに移り、4人のシンポジストが自らの研究をとおして、室町公方と鎌倉公方による二元的国家ではなかつたのかなどとして、里見の安房入部にいたつた時代背景などを考察し